

# おひさまっこ保育園自己評価表

2022年度 評価責任者：管理者 菊池彩子

	今年度の活動	評価・反省 課題
施設管理	日除けと雨除けができるよう、玄関にオーニングテントを設置しました。施設の柵のゆがみと建設時の不備があり、改修工事を実施しました。	玄関通路が夏は暑くなり、雨の際は濡れていたが、オーニングテントを設置したことで両方も改善することができました。建設時の不備等があったが、今後も毎月点検をしていく事で施設の管理に努めていきます。
人事管理	豊中地域の姉妹園の職員と交換研修を行い、保育を客観視する機会になり、子ども理解や保育を高め合ってきました。第三者評価を受審し、これまでの保育を振り返り、大切にしてきた事や意味を改めて共有しながら取り組みました。子育て支援員の研修を受講し、配置することができました。また、キャリアアップ研修の受講を計画的に進める事ができました。	姉妹園との交換研修をすることで保育を客観視できたり、子ども理解を深める事ができました。また、職員が他園に行く事で視野を広げる機会になりました。スマイルサポーターの研修を職員が受講し、地域の子育て世帯の要求や相談に応じていける体制をつくっていきます。
保護者対応	保護者と共に記念誌づくりに取り組みました。生活発表会では保護者会の協力と要望のもと、運動会は保護者会主催の第二部を開催でき、初めての参加の保護者がほとんどだったので、取り組みを通して保護者同士がつながり合う機会になりました。生活発表会では、3部制から2部制に移行して行いました。第三者評価受審では、全保護者からアンケートの提出がありました。	記念誌づくりや運動会、生活発表会の取り組みから、日々の生活や行事が保護者からもよく見え、幼児への見通しにつながりました。 第三者評価のアンケートでは、保育運営や保育内容への関心の高さを実感し、職員の励みになりました。
健康及び安全	健康面では、感染症など大きな広がりはありませんでした。新型コロナウイルスの感染もみられなかった。夏に下痢や発熱のため数日欠席する児がいました。 事故件数については1件あり、転倒による怪我で歯科受診しました。	行事や日常の保育の面でおひさま保育園と連携しているが、感染症が出た場合などは環境を分けることで、感染症が拡大することなく過ごせました。乳児だけの小さな施設の為、連携施設であるおひさま保育園や戸外への散歩など活動に取り入れながら、子ども達の身体作りを継続して考えていきます。
小学校・地域連携	引き続き、自治会、社会福祉協議会と連携し、介護予防体操（ぐんぐん元気塾）、認知症とその家族の交流の場（オレンジカフェ）、お弁当配布などに場所の提供を実施しました。おひさま保育園の卒園児ボランティアの受け入れを、人数制限をしながら実施し、連携しながら取り組んでいる子どもの居場所づくり『おひさまの家』（地域支援事業）では放課後子どもクラブ後の生活支援の場として地域の学童（主におひさま保育園の卒園児）を毎日3～5人受け入れ、在園児との交流を図ってきました。	顔が見える関係がお互いにとって安心でき、人とのつながりを実感できる機会になっています。今後も地域福祉の拠点としての役割が担えるよう取り組んでいきます。
保育の質の向上	園内研修ではおひさま保育園と共に長瀬先生、杉山先生を講師に、年間を通し、保育実践から学ぶ機会を持った。法人研修では、中堅職員を対象に『長く働き続けられる職場であるために』というテーマで講師を招いて研修し、また職員の沖縄の平和研修の報告、法人の理念と歴史を学び、各園の実践報告から法人理念や保育理念、基本方針の理解を深めました。	園内での研修を今後も充実させていきます。法人として新たな園を4月から開園することもあり、新任の職員が増えるため、新任を対象とした法人研修を行っていきます。
地域との関わり	オレンジカフェやおひさまの家を利用する人たちと交流し、子ども達にとって様々な人との関わりが持てる機会をつくることができました。災害が起こった際に、避難所としての機能が果たせるよう、備蓄品を確保しました。	スマイルサポーターを中心に、地域の子育て世帯の現状や思いを把握しながら、地域とつながりがもてる取り組みを考えていきます。
その他		